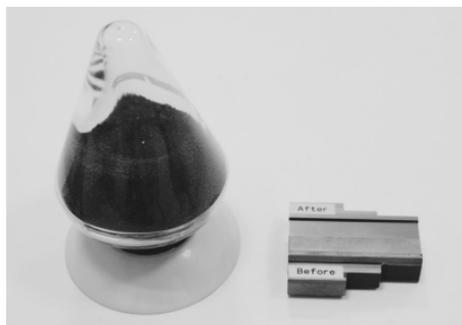


# 機械化図れ、作業時間短縮 磨き用のブラスト研磨材

三共理化学（埼玉県桶川市、048・786・2118）はこのほど、ブラスト研磨装置向け特殊研磨材「Lappin（ラッピン）」に粗磨き用（粒度#220～600）を追加した。これまで人手をかけていた粗磨き作業の機械化が図れる他、作業時間も大幅に短縮することができる。



「ラッピン」はブロー式、コンプレッサ式のエアブラスト研磨装置で使用できる特殊研磨材。弾性母材に砥粒が付いた研磨材で、下地の素材を傷つけることなく、バリや加工目を除去することができる。昨年から中磨きや仕上げ用（#1500～1万）を発売していた。

新製品の粗磨き用は、#220、320、400、600の4種類を揃える。砥粒は炭化ケイ素で、工具鋼やステンレス鋼、アルミ合金などの材質に対応する。#220を使用した表面の仕上がりは、Ra（表面粗さ） $0.8\mu\text{m}$ を実現する。

新製品によって粗磨きから中磨き、仕上げまでを研磨装置で仕上げることが可能になった。「これまで粗磨きは手作業で行っていたが、機械化が可能になり、作業効率を向上させることができる。1時間かかっていた作業が30分に短縮した事例もある」（ビジネス開発部の村松三樹緒氏）。

また、ロボットなどの自動化装置を組み合わせた自動化提案なども行っている。「ブラスト研磨は金型など複雑な形状のワークと相性が良い。自動化など顧客の課題に合わせた提案を行っていく」（村松氏）。